



「気象予報士会 ホームページ」リニューアル

ホームページ担当幹事 原 隆志



トップページ

気象予報士会のホームページ（以下、HP）が開設されまして、お陰様で早2年が経ちました。これも皆様方のご協力があってこそ、ここまで来られたのではないかと思います。

気象予報士会も、創生期から発展期への脱皮を図る年ということで、会の中でも事務処理、会報編集作業の外注化を行うなど大きく変わり始めています。HP委員会としても気象予報士会会員の皆様の中で、HP作成技術を持ち、かつ責任を持って作業をしていただける方数名に作成作業を委託する“当会内部の外注化”という方法を打ち出し、HP委員会を運営していく事といたしました。

今回、HP委員会では、再スタートにあたり、まず、気象に関係のない方に、気象予報士や気象予報士会という組織がどのように活動しているのか？ということを知っていただく事に主眼を置いたHPを構築することといたしました。

とくにリンクのページにつきましては、気象予報士会会員でHPをお持ちになられている方専用のリンクですので、一般の方にも気象予報士が単なる天気予想だけをするのではなく、他にも色々な分野で活躍さ

れているという事が分かっていただけるのではないかと思います。現在、リンク数は少ないのですが、会員の方で気象に関するHPを運営されている方であれば、どなたにでも紹介スペースを提供しておりますので、積極的に活用していただけたらと思います。

HP委員会組織につきましては、担当幹事を含め現在、4名で構成されています。そのなかで、HPのコンテンツの取材、企画等を担当するチームと実際にHPを作るチームに分かれて、作業の効率化を図っております。HPは年4回を目処に随時更新していくように計画しております。今後、会報「てんきすと」、メーリングリストに次ぐ媒体として、会員向け、一般向けのコンテンツの充実を図っていきたく思っております。また独自のドメイン取得も視野に入れて活動していきたいと思っております。

現時点では生まれたばかりの状態ですが、一歩ずつ段階を踏んで、会の皆様と共に成長させることが出来ればと思います。また、皆様のご意見、ご感想が何よりの励みになりますので、遠慮なく担当幹事までお知らせいただければと思います。



会員サイトへのリンクページ

第2回関西気象予報士会 定期総会開催



富田会長

11月18日、関西気象予報士会第2回定期総会が、大阪管区気象台渡部主任予報官、高崎気象予報士会幹事を来賓にお迎えし、37名の会員の参加のもと、大阪科学技術センターにおいて開催されました。

1年前同じ会場で産声を上げ、不安と期待の入り交じったスタートを切った本会ですが、総会席上事業報告する幹事の表情は、なかなか自信に満ちたものでした。といいますのもこの1年間、会員の資質向上のための定期的な研修会に加え、「お天気フェア」や「楽しいお天気講座」への協力など、一般市民や子供たちに対する普及活動にも取り組み、予想以上の成果を残せたからです。そうした活動を通じて、会員相互の親睦や結束も一段と進みました。

2年目の目標として、局地災害につながる気象についての天気図検討会などにも挑戦しようという提案が出され了承されましたが、折しも総会終了後、大阪府立大学名誉教授 小元敬男氏による「Severe Storm」と題した特別講演があり、ダウンバーストやトルネードに関する貴重なお話に皆熱心に耳を傾けた次第です。関西気象予報士会は、今後も気象予報士会や各支部の皆様とも連携しながら、ますますパワフルに活動を続けていこうと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします！



特別講演「Severe Storm」 小元敬男教授

【第2回関西気象予報士会 定期総会議事録】

司会進行：幹事 平松信昭 書記：幹事 鳥越一朗

1 日 時 平成12年11月18日(土) 14:00～15:20

2 場 所 大阪科学技術センター
(大阪市西区鞠本町1-8-4)

3 会長挨拶 関西気象予報士会会長 富田正夫

4 来賓挨拶 大阪管区気象台台長代理 渡部主任予報官
気象予報士会会長代理 高崎幹事

5 議 事

(1) 議長選出 事務局推薦により上田博康会員が就任

(2) 総会の成立

会員数87名(86名と発表されたが87名の誤り)

総会成立定足数44名(会員の2分の1以上)

出席者数31名、委任状42名、計73名

(よって総会は成立)

(3) 第1号議案【平成11年度事業報告について】

報告：幹事 土井修二

・H.12.2.4 関西航空地方気象台研修(航空気象・ドップラーレーダー見学)

・H.12.2.5～6 気象予報士会勉強会(大阪府立青年の家にて開催)への協力

・H.12.4.22 高層気象勉強会と測風気球による上空風測定(京都産業大学)

・H.12.6.9 神戸海洋気象台研修(海洋気象・海洋観測船「春風丸」見学)

・H.12.8.4 大阪管区気象台研修(地方予報中枢業務と21号答申)

・H.12.8 NTTドコモユーザー向け小冊子の台風に関する原稿の監修

・H.12.8.10～12 お天気フェア(日本気象協会主催・阪急三番街にて開催)への協力

・H.12.9～10 「楽しいお天気講座」(大阪府立青年の家主催)へ講師派遣

・H.12.10.14 第4回移動幹事会への協力・気象予報士会幹事会との意見交換会

・藤本会員(大阪府立青年の家職員)から「楽しいお天気講座」の謝礼と詳細報告

[反対者なし、採決承認]

(4) 第2号議案(平成12年度決算報告及び監査報告について) 報告：幹事 諫山安彦

本会は、入会費・年会費の徴収を行っておらず、その都度の実費徴収・ボランティアを基本としているので、予算案はなく決算のみを報告

収入 796,900円

支出 660,541円

差額 136,359円

(内訳略、差額は翌年度へ繰り越し)

- ・会計監事 岩崎充良より適正に会計処理されている旨の報告

[反対者、会員からの質問なし、採決承認]

(5) 第3号議案【平成12年度事業計画について】

報告：幹事 山口和弘

- ・H.13.2 国土交通省淀川ダム統合管理事務所研修(洪水予報)
- ・H.13.2 「楽しいお天気講座」へ講師派遣
- ・H.13.5 関西電力中央給電指令所研修(電力気象)
- ・H.13.8 関西テレビ局研修(お天気番組放送現場)
- ・天気図検討会開催について別途前向きに検討

[反対者、質問なし、採決承認]

(6) その他

- ・会則第4条第3項に定める退会届について、幽霊会員を増やさないため、1年連絡なき者は、運用により自

動退会の扱いとしたいがどうか。(山口幹事)

- ・会則の改正により行うべきで運用による取り扱いには反対である。(佐野会員、加藤信雄会員)
- ・(幹事協議の結果)再検討の上必要とあれば次回総会に会則の改正案として上程することとする。(山口幹事)



懇親会

東京支部天気図検討会 ～1年を振り返って～

八木健太郎(神奈川)

東京支部天気図検討会は、(株)海洋気象情報の東修造さんに一貫して御指導を頂いている、気象解析・予想についての実践的な勉強会です。

昨年の開催状況を簡単に振り返ります。

2月19日(土)

発生段階の東シナ海低気圧を実況解析した。低気圧が南岸を通過すると予想されたため雨雪判断が焦点となった。

4月1日(土)

高気圧が通過することから、2日の東京湾岸の風予想と週間予想図の作成、4日の雲予想を実施した。

5月20日(土)

南大東島の東を台風2号が北東進、朝鮮半島北部には寒冷渦があり南東進、本州中部には前線性の降水域がある、悪天をもたらす要素が揃った日であった。

6月24日(土)

山陰沖には寒冷渦的な小低気圧、梅雨前線は本州を横断する、梅雨時の予想、前線解析の難しさを再認識するには願ってもない日となった。

7月8日(土)

台風3号が早朝に房総沖を通過した。交通機関の寸断も予想されるなか、参加者27名!

9月9日(土)

これ以降「入門者向け検討会」を併設した。

南海上には台風14、15号、北海道には高気圧があり日本海沿岸を秋雨前線が延びる、悪天要素に事欠かない日となった。11日は東海地方で集中豪雨。10月14日(土)

高気圧の通過と南海上の前線の明瞭化が課題となった。多くの方がFXJP854の等温位線の集中から前線の顕在化を想定し、南関東の悪天を予想した。

11月25日(土)

高層(300hPa、500hPa)は北系と南系に分かれる状況で、翌日はそれぞれ小さなトラフが通過すると予想された。地上天気図では、日本付近全体が気圧の谷に入るとも見えたが、本州中部はジェットの間の高圧部と考えるべきで、関東地方は快晴となった。

東京支部天気図検討会は、予報のプロから直々に講義していただける得難い場であると思います。会場の制約などの範囲内で多くの方にご参加いただきたいと考えております。次回は、

2月4日(日)13時～17時

池袋 東京芸術劇場 中会議室を予定しています。

参加ご希望の方、八木までご連絡下さい。

最後になりましたが、一貫して御指導いただいております東修造さんに改めて御礼申し上げると共に、これからも御指導下さいますようお願いいたします。



船曳佳弘 会員（神奈川）

11月3日11時、神奈川気象予報士会の会員24名が横須賀駅に集合。バスで米海軍横須賀基地に向かいました。そこは異国の地です。オフィサーズクラブに到着。ここにて、昼食およびブリーフィング、懇親会が開催されました。

さて、最初の見学先、米海軍横須賀気象海洋センター（<http://www.yoko.npmoc.navy.mil>）は、西太平洋とインド洋を管轄域とし、主な業務は、1）衛星画像の受信、2）海洋気象の予報、3）気象観測、4）データ配信、5）移動気象海洋支援班の派遣等です。海洋予報には、波浪等の他に海中も含まれている模様です。

センター内は窓のない部屋で、全てペーパーレスで、以前に見学した航空自衛隊の時とは多分に様子が異なっていました。

天候の都合で、ゾンデの飛揚は中止、実物を前にした説明のみとなりました。受信装置は小

さく可搬式です。ゾンデはGPS機能付きです。

すべての艦船は我々を満艦飾で歓迎です（実は、文化の日）。潜水艦での説明では防音タイルの話もあり、途中の乾ドックでは駆逐艦のソーナードームを見ることができました。

護衛艦の見学では、機関室の他にミサイル・主砲等のめったに実見できない物を体験出来ました。見学の道中では、話題の潜水艦救難艦も遠目に見えました。

最後は、記念艦三笠の見学です。艦内には当時の独製アナロイド自記気圧計や無線用電鍵が展示されていました。これらの機器を見ると、先ほどの最先端との差を実感できました。

懇親会は、バーをセットして、アメリカンなドリンクとオードブル、当クラブならではの雰囲気でした。

なお、当日の予報は雨でしたが、我々のために持ちこたえてくれました。

神奈川気象予報士会 「ヨコスカ・イベント」見学記

織田 剛 会員（神奈川）

さる11月3日に神奈川気象予報士会のイベントとして米海軍横須賀気象海洋センターの見学が実施されました。参加者は男性22名、女性2名でした。この日は全国的に晴れの特異日ですが、今年は朝から雲が多く時折小雨がばらつく空模様となりました。

最初に、私達は米軍基地内のオフィサーズクラブで昼食をとりました。その後、日本語によるブリーフィングが20分程度行われました。その後私達はオフィサーズクラブを離れ、基地内をマイクロバスで移動し、岸壁に止まっている新鋭潜水艦「うずしお」を見学しました。それから私達はマイクロバスで米海軍横須賀気象海洋センターに行きました。当センターは30mくらいの小高い丘の上にあります。私達はここで2つのグループに分かれて、オペレーションルーム及びMET（Mobil Environmental Team）のルームを交互に見学しました。前者はパソコンが20台程度並ぶ操作室でありました。操作員の方より業務内容や組織、シス

テムの説明を英語で受けました。

ここでの業務内容は主として通信衛星等による気象や海況の情報を入手し、これを解析した上で訓練機や船の航路の変更指示を行うことでした。後者は8畳くらいの部屋でラジオゾンデが机の上に置いてありました。本装置は可搬式で、みかん箱程度の箱が2個つながったような形状でした。ラジオゾンデのデモンストレーションを行う予定でしたが、悪天候で視界が悪い為にデモンストレーションは中止となりました。その後は、海上自衛隊船越基地での護衛艦「しらゆき」の見学、そして船越基地を出て記念艦「三笠」の見学を行いました。

このイベントの締めくくりはやはり例外なく懇親会でした。場所は、昼食をとった所である、オフィサーズクラブでした。懇親会はいつものように熱く盛り上がりました。

最後に、本イベントの幹事役を勤めていただきました千々木会員をはじめ、場所を提供していただきました自衛隊の方々に厚く御礼申し上げます。

「農業気象災害の実態解析

～千葉県における2000.5.24の降雹の事例より～

上原 絢子 会員（千葉）

2000年5月24日昼過ぎ、茨城県南西部から千葉県北西・中部（以下同地域）にかけて降雹があり、千葉県内において66億円に達する農業被害が出た。被災者は皆口々に、あつという間の出来事だったと話し、短時間かつ局地的な農業気象災害であったと推定される。しかしこれほどまでの農業被害をもたらした現象の実態はどのようなものであったのだろうか。その実態を解析してみることにした。

1. 各種気象資料からみた現象

当日9時の地上天気図（図1）をみると九州の西の海上に高気圧があり、同地域はこの高気圧の影響で地上気温が30度近くまで上昇し、蒸し暑い日となった。

一方、日本海中部には低気圧があり東南東進している。同時刻の500hPa天気図によるとこの低気圧は -

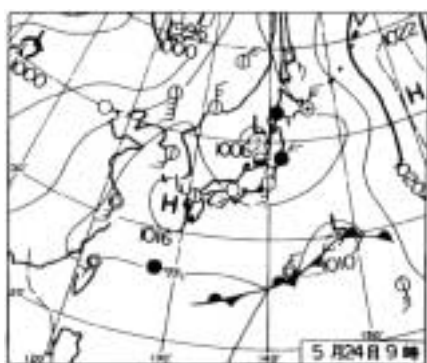


図1 2000年5月24日09時の地上天気図（気象庁発表）

18度以下の強い寒気を伴った寒冷低気圧であり、この低気圧による寒気流入と地上気温の上昇により大気の状態が不安定になり、その結果、同地域に降雹がもたらされたものと考えられる。

2. 現地調査からみた現象

気象資料の解析のみでは、なぜ同地域に局地的降雹がもたらされたのか、なぜあれほどの農業被害が出たのか、という疑問に答えるには不十分であった。今回のような短時間、局地的なメソスケールの現象はメカニズムも難しければ現象の全体を捉えるのも難しい。そこで私は、足を使った被災状況の調査と被災者への聞き取り調査といった現地調査を行った。結果は図2の通りである。

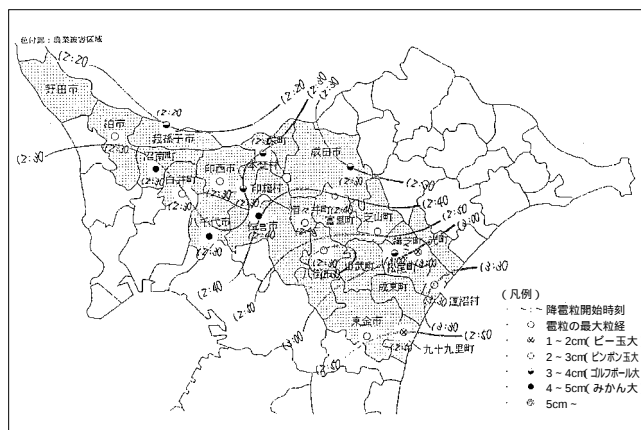


図2 現地調査記録（雹粒のサイズ、降雹開始時刻をプロット）

これをみると、降雹は千葉県北西部から始まり、帯状の雷雲はそのまま東南東進し、太平洋上へと抜けたことがわかる。また、12：30から15分程度の間に降雹が集中している。これらの地域で被害も最大となったわけだが、この理由は後ほど検証する。

この他、佐倉市での聞き取りにより以下の現象があったことが判明した。（1）降雹に先立ち、空が突然暗緑色に暗くなり冷気を伴う突風があった。（12：35頃）（2）降雹に伴い、結露ができるほど気温が低下した。（12：40～50頃）（3）雹は北西方向からの強い吹き付けにより横殴りに飛来した。（12：40～50頃）

13時には日差しも出て晴天となり、30分にも満たない短時間の現象であった。

3. 地上気象観測からみた現象

被災地域のアメダスデータ、消防署気象観測データを収集し分析したところ、いずれの地点も降雹に伴って降水量が観測されており、これと前後して風向が反時計回りに急変している。また、降雹に伴い気温の急激な低下が記録されており、相対湿度はほぼ飽和に達している。佐倉では31.1m/sに達するガストがみられた。

これらのデータのうち風向に関してプロットしたものを図3に示す。

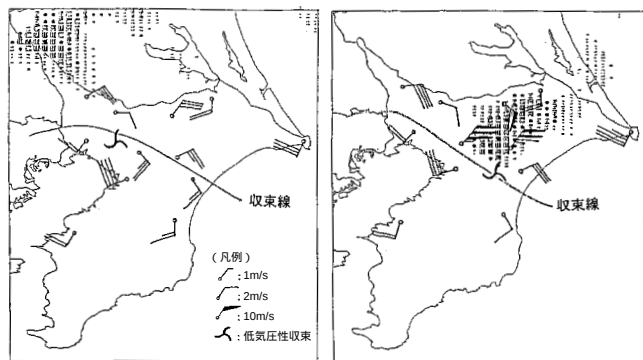


図3 メソスケール天気図（風向）

同地域には収束線がWNW - ESEの方向で解析され、雷雲がこの収束線に沿って東南東進したことがわかる。また、12：00には八千代市付近に、13：00には東金市付近に、それぞれ低気圧性収束^{*1}が見られるが、この低気圧性収束は、12：30～50頃佐倉市付近を通過しており、ほぼ同時刻に佐倉市付近を通過した雷雲はここで最盛期を迎えた。この結果、12：30から15分程度の間に降雹被害が最大となったのではないかと考えられる。

局地的な気象現象の実態解析は難しい。しかし、農業被害の多大さを目の当たりにすると、このような気象災害対策の重要性を再認識させられる。今後、気象災害対策情報のリスク回避的な利活用に気象予報士が積極的に関わっていければと強く思った。

* 1 低気圧性収束……ここでは風向反時計回りの低気圧性循環の中心を指す。

【ML北海道】

ML北海道の活動についてご紹介します。

ML北海道は「肩のこらない活動」をモットーに、北海道在住の気象予報士だけでなく、これから気象予報士を目指す人が集まり、メールによる情報交換と月1回の例会を中心とした活動を行っています。

例会では、ML北海道の活動について議論するほか、気象、海、山、川、湖など身近な自然現象を幅広く講演会形式で勉強したり、また天気図の見方について研鑽の場を設けたりしています。

1月例会は、恒例となった「気象予報士試験解答速報」を、試験当日に開催の予定です。

ML北海道のメンバーは気象専門の方の他に、普段気象とあまり関係しない多彩な職業の人が集まっており、例会でも幅広い視点からの情報が交換されています。

「ML北海道」に関心のある方は下記の連絡先までお気軽にご連絡下さい。

連絡先

山崎孝治：yamazaki@ees.hokudai.ac.jp

波松章勝：an@mb.infosnow.ne.jp

【つくば予報士会準備会】

つくば予報士会準備会の第2回会合は、新年会を兼ねて1月6日につくば市内で行われました。参加者は5人とややさびしかったのですが（大学生が帰省したから？）、同日に実施された中央省庁の再編をネタに歓談しました。

今回は、懸案である気象研の高さ200mの鉄塔見学会とセットで春ごろに開く予定です。この鉄塔のエレベーターは、いまだき珍しいラッチ式（ケーブルではなく、歯車でゆっくりと昇降する仕組み）なので、1日の見学者は10数人が限度だということです。

準備会幹事・池辺@日経筑波

【東京支部】

東京支部は新世紀も「会合」「天気図検討会」「見学会」を中心に活動をしていく予定です。

「会合」は、最先端情報から身近な気象関連の話題まで、みなさんの話題提供を中心に、幅広く勉強できる場を目指します。

「天気図検討会」は、天気図解析や予報技術など、プロの方のご指導を頂ける実践的な場として引き続き開催していきます。

次回活動は、会合は3月、天気図検討会は2月4日（日）を予定しています。参加ご希望の方は以下までご連絡下さい。郵送会員の方にはハガキでのご案内も行っています。どうぞお申し出下さい。

〒181-0012 三鷹市上連雀 6-6-9-341 渡辺 保之

【千葉県気象予報士会】

千葉県気象予報士会第5回例会のご案内

千葉県気象予報士会では2月18日（日）13時より

船橋市勤労市民センター（船橋市本町4-19-6）にて第5回例会を開催致します。

内容は招待講演：「気管支喘息と気象 - 医学気象予報の可能性は」

伊東 繁氏（帝京大学医学部小児科教授・日本生気象学会雑誌編集委員）

話題提供：「千葉県野田市の気象について」武樋憲明
会員、「週間天気予報の利用について」
北村雅仁氏（気象庁予報部）です。

例会終了後、懇親会を行います。

千葉県気象予報士会例会にはどなたでもご参加いただけます。

会場準備の都合上、参加ご希望の方はあらかじめ

遊佐昌樹 BVE255@my.email.ne.jp または、

美郷医学研究所（遊佐）Tel:0279-70-5120 までご連絡下さい。折り返し詳細をお知らせいたします。

【神奈川気象予報士会】

次回開催案内（開催日、開催場所、集合時間、連絡先・連絡方法 等）

4月14日（土）13時30分

東急東横線 日吉駅 ひよたま前 集合

例会 開始 13時45分から

当日世話人 大貫 一郎、真鍋 千秋

場所 慶應義塾高等学校地学教室

事前の参加連絡は不要です。

最近のトピックス

前回報告 2001年1月13日（土）

開催場所：慶應義塾高等学校地学教室

13時45分～18時

参加者 26名（名簿省略）

13日世話人 小川 栄造、佐藤 元

（1）写真コンテスト 出品作品（敬称略）

- 大貫 一郎 ハヶ岳 霧氷等
- 真鍋 千秋 11月始めハヶ岳 滝雲、渦雲等
- 松本 直記 滋賀高原 幻日 等
- 小川 栄造 自宅からの雲写真と赤外雲画像
- 佐藤 元 槍穂高連峰雲海、自宅からの雲アニメーション
- 山本 秀生 幻日、下部タンジェントアーク、日輪
- 佐藤 直行 富士山 夕焼け 傘雲
- 小川 豪 積乱雲の中の降雨
- 平川 昭夫 幻日等

（2）話題提供

- 佐藤 元 通信衛星を利用した動画配信
- 佐藤 直行 バンコック気象局訪問記
- 大貫 一郎 銀塩写真とデジタル写真の品質比較
- 池田 耕一 11月11日の相模湾での強風

（3）その他 運営事項

地方活動の宣伝、広報等

神奈川は、神奈川県だけでなく広く県外からの参加も可能です。比較的自由的な雰囲気、自分たちそれぞれのテーマについて話し合い気象予報士の資質向上に努めています。ふるってご参加下さい。

地方ML神奈川世話人 小川栄造

【静岡県東部顔合わせ会】

2000年11月4日（土）17時より3時間余り、第6回“静岡県東部顔合わせ会”を実施しました。今回も、静岡県東部在住の6名だけでなく、東京・神奈川・県中部の気象予報士の皆様も参加して下さり合計9名、喉を潤し料理を囲みながら、ざっくばらんに親睦

のご案内

交流を深める賑やかな会となりました。そんな雰囲気の中、気の合うもの同士で、天気図や気象の本を囲むものあり、趣味の音楽について語りあったり、夏に行った山に思い巡らし.....など、全く違うタイプの話の花があちこちで咲いていました。近くの仲間の意外な素顔に、いつもながら励まされます。

次回顔合わせ会の予定は未定ですが、決まり次第、予報士会メーリングリスト“yoho-forum1”に、ご案内します。

文責 上妻美砂恵

【東海支部】

中原@東海支部です。全国の気象予報士の皆様に東海支部からお願いです。

来る3月17日(土)から3月31日(土)までの15日間名古屋科学館にて気象企画展「君も気象予報士」が開催されます。

東海支部ではこの企画を「気象予報士」を知っていただく絶好の機会と考え全力で取り組むつもりです。

企画内容等は以下の通りですが、皆様のアイデア・応援をお願い致します。気象予報士を全面的に取り上げた企画です。

開催機関：名古屋科学館

企画名：企画展「君も気象予報士」

開催期間：2001.3.17～2001.3.31(15日間)

企画趣旨：わたしたちの生活のあり方を左右するさまざまな要素のうち、天気ほど重要で身近なものはない。遠足や旅行など特別な行事がなくても天気予報は気にするほどである。

天気予報は、気象学の生活への集大成であり、科学の粋である。その天気予報を行うために必要な資格として、「気象予報士資格」が平成6年に制定された。

そこで本企画展では、気象予報士をクローズアップして、天気予報ができるしくみやその意味、予報のための気象観測、天気図の作り方などをわかりやすく解説するとともに、天気・気象の実演、クイズなどで楽しく気象にふれられるよう展示を行う。

展示コーナー及び展示物

・展示については科学館が担当し、気象予報士会は下記1.2.を担当する。

・4.6.7.は基本的に土・日に開催予定。

1.気象予報士コーナー(メインテーマ)

パネル展示「気象予報士とは「天気予報ができるまで」

2.東海豪雨コーナー

東海豪雨の経緯、災害の発生経過、災害への備え

3.実験コーナー

雲をつくる。雪の結晶をつくる。雪にさわってみよう。

4.お天気なぜなぜコーナー

来場者(主に小中校生と親)からのお天気に関する質問に答える。

5.お天気クイズ

各コーナーにクイズを掲示全問正解者にプレゼント。

6.天気図を作ろうコーナー

小中校生を対象にわかりやすい天気図の書き方や見方をアドバイス。

7.あなたもお天気キャスター

テレビに出演しているキャスターに来ていただいて

解説してもらう。対象は小中校生が主。

8.展示物

気象衛星ひまわりの模型

観測測器等：アメダス、レーウィンゾンデ、オゾンゾンデ、雨量計、気圧計、風向風速計、温度計等
空の芸術：雲(10種雲形)虹、環天頂アーク、幻日、等の写真

各コーナーのみなさんのアイデアをお願い致します。また、開催期間は15日間とロングランです、気象予報士コーナーの応援をお願い致します。

ご不明の点は中原定雄@東海支部(下記)までメールあるいは電話いただければ幸いです。

住所：〒503-0024 大垣市宿地町986-5

E-mail:nakahara@okbnet.ne.jp TEL:0584-81-1467

Webpage <http://member.nifty.ne.jp/snakahara/>

【関西気象予報士会】

関西気象予報士会は2年目に入りました。1年目の活動は気象台見学を中心に例会を実施しましたが、2年目は防災や報道など少し違ったテーマで例会を開催する予定です。今回は2月に洪水予報をテーマとして国土交通省淀川ダム統合管理事務所の見学を予定しています。会員同士の勉強会としては1ヶ月予報をテーマに2月3日に実施します。会員の方にはメールや葉書でご案内します。また、第2回楽しいお天気講座への講師派遣は1月末実施の予定で準備を進めています。他支部との連携もこれから重要になると考えられ、1月の四国支部例会に関西から有志が出席させていただき意見交換をすることにしています。

関西気象予報士会に関するお問い合わせは次のところまで。

(財)日本気象協会関西支社気象情報部 平松信昭

TEL:06-6266-7613 FAX:06-6266-6000

e-mail:hiramatu@jwa.or.jp

【四国支部】

次回開催案内

第8回例会(高知県)を5月13日(日)10時30分(話題提供少数の時は13時)～予定しています。高知市内で会場を手配中です。

参加希望者は、濱田和雄 RXR13772@nifty.ne.jp または0897-52-0221)までメール・ を下さい。中国地方からもお待ちしております。ふるってご参加下さい。

最近のトピックス

1月14日(日) 第7回例会(徳島県)が、山あいの阿波池田町にて参加総勢16名(過去最高)で行われました。関西気象予報士会から3名・岡山県から1名が雪の中、駆けつけて下さり交流・議論の声が本格的に“こだまして”きています。話題は、「台風による80m/s以上のGUST WINDの観測事例紹介」,「1～2NOV.2000豪雨等、地形効果について」,「1ヶ月予報講習会について(報告)」,「関西気象予報士会の活動について」,「何がしたいん?何ができるん? - 四国の活動・これからの企画 - 」。夜は、10名を超える参加の懇親会で大いに盛り上がりました。関西、岡山県、四国のみならず、気象予報士会員なら誰でも参加できます。

濱田 和雄@四国愛媛

【気象予報士会次期幹事候補者公募の御案内】

気象予報士会も会員の皆様方に支えられ設立6年目を迎えます。第4回定期総会にて選任された幹事も来る第6回定期総会にて2年間の任期を満了する事となりました。つきましては次期幹事の選出が必要となりますので、ここに候補者を公募致します。

幹事に立候補の御意志がある方、および推薦候補者（本人の同意必要）がおありの方は葉書・FAX・Eメールの方法にて下記までお申し出下さい。

幹事の定数 12名 を越えた場合は選挙となります。
〒107-0052 東京都港区赤坂7-6-52 ハイツ赤坂103
(株)第一プランニングセンター内

「気象予報士会事務センター」宛

FAX 03-3588-0973 E-mail yohohead@mb.infoweb.ne.jp

3月28日(水) 〆切

幹事会の概要としては、現在月1～2回程度（年20回程度）平日午後7～9時に気象庁（東京都千代田区

大手町）周辺の会場にて開催しております。勤務等との関係で幹事全員の出席は難しく、通常、7～8名の出席で開催されております。出席幹事の交通費は、支給されます。

幹事会についての問い合わせは下記まで。

富沢 勝（幹事長） TEL 03-5958-8143 または
高崎和彦（総務担当幹事）E-mail:DLR12438@biglobe.ne.jp

会費納入に関するお願い

会計担当 佐藤祐子幹事

日頃より気象予報士会活動にご理解・ご協力いただき誠にありがとうございます。

皆様ご承知のこととは存じますが、前回総会のご承認を頂き、来年度からは年会費が5,000円に値上げとなります。会費納入のご案内は例年通り4月末頃お届けする予定でありますが、会の運営の根本を担う会費の早期納入にご協力いただきますようお願い申し上げます。

会報「てんきすと」投稿規定

1. 投稿から掲載までの流れ

- ・会員の皆様が投稿された原稿は、以下のような手順を経て掲載されます。
「投稿」→「受付」→「査読」→「修正依頼」→「著者の修正」→「再投稿」→「受理」→「編集」→「掲載」

2. 査読について

- ・応募された原稿に関しては、幹事会にてその内容を審査します。
- ・原稿内容によっては、幹事会以外にも査読をお願いする場合があります。

3. 原稿分量について

- ・原則として下記範囲内とします。これを超える場合には、著者に原稿分量の調整を依頼することがあります。
- ・文字数 1,000字以内
- ・図表 2枚以内
- ・画像データ 合計サイズ 256kB以内

4. 原稿の修正について

- ・ご応募いただいた原稿に内容変更の必要性が生じた場合には、（掲載を前提に）著者に原稿修正の依頼をすることがあります。ただし、最終的な掲載・不掲載の判断あるいは、掲載する場合の掲載号については、原稿修正完了後、幹事会にて最終決定するものとします。
- ・また、幹事会にて、文章の内容を変えない範囲で若干の添削（誤字・脱字修正、表記・文体統一など）をすることがあります。この際には、原則として著者に連絡することはありません。

5. 掲載の決定と通知

- ・著者への連絡は「受理」段階で行います。なお、この際「てんきすと掲載原稿とすること」のみを著者に連絡します。
- ・応募多数もしくはその他の理由により、掲載号が変更になることがあります。

6. 応募原稿の注意事項

- ・原稿はワープロ化された電子媒体によるご応募を推奨しますが、手書きでも構いません。手書きの場合には、文字をはっきりと読みやすく書いて下さい。
- ・図表に関しても、EXCEL、LOTUSなどの表計算ソフトで電子化されたものを推奨します。
- ・制作コスト削減のため、手書きグラフの場合には、方眼紙上に定規にて清書して頂き、グラフ上の各ポイントが明確に読みとれるようにして下さい。
- ・応募された原稿・写真等に関しては、原則としてお返ししません。

編集後記

ある新聞のアンケートによると、21世紀は情報技術が向上するものの、逆に人間関係は希薄になっていくであろうと、国民は感じているとのこと。IT技術により会員間のネットワークを強化していく手段がHPであるとすれば、会報は「紙面」という古典的・伝統的な手段で会員間の人間関係を維持していく手段といえるでしょう。当会会員間のネットワーク・交流を深める手段として、会員の皆様には「てんきすと」を積極的に活用していただきたいと思います。

本年も気象予報士会をよろしく願いいたします。（編集子）

気象予報士会 E-mail yohohead@mb.infoweb.ne.jp

ホームページ <http://village.infoweb.ne.jp/yoho/>

気象予報士会メーリングリスト加入に関するお問い合わせは上記E-mailアドレスまでお願いします。

発行日 2001年1月31日 発行人 木村龍治 発行所 気象予報士会◎ 編集協力 (株)第一プランニングセンター